

愛媛県瀬戸内海沿岸で確認されたアミメキンセンガニ

清水孝昭¹

¹ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター

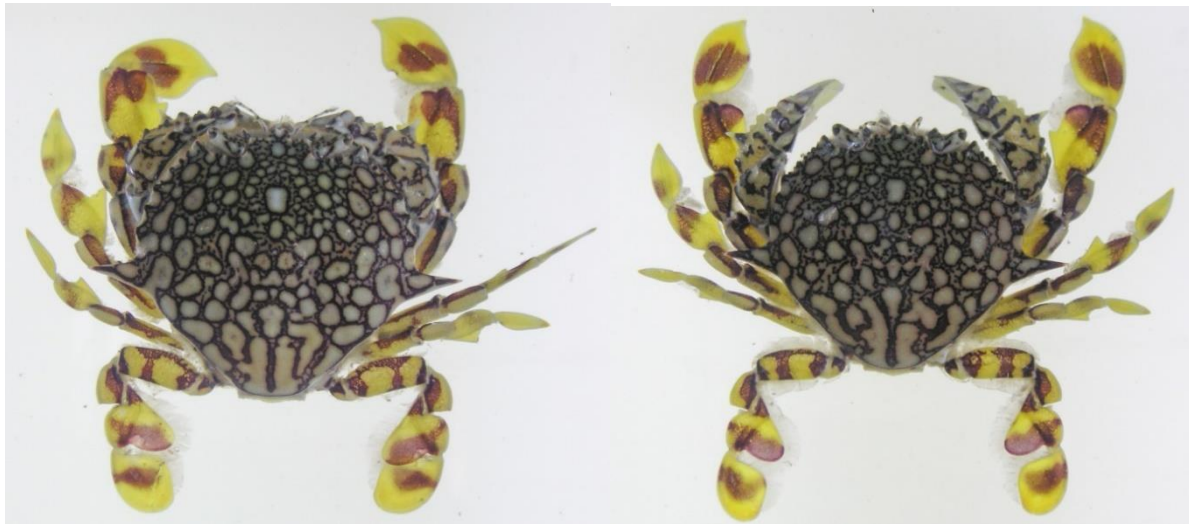


写真1 *Matuta planipes* Fabricius, 1798 アミメキンセンガニ (左 : TKPM-AR 3248, 右 : TKPM-AR 3249)

種の記録

Matutidae キンセンガニ科

Matuta planipes Fabricius, 1798

アミメキンセンガニ (写真1)

標本 観察年月日: 2005年6月29日. 採集場所: 伊予市沿岸. 採集方法: イワシ船曳網. 採集尾数: 2 個体. 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3248: 殻幅 43.4mm, 殻長 32.5mm, (♀). TKPM-AR 3249: 殻幅 37.9mm, 殻長 27.7mm, (♀).

種の特徴

標本個体はいずれも、額域は眼窩より幅広く、中央が突出して先端が二又すること、頭胸甲は平滑で小顆粒が散在すること、甲の側縁中央に側方へ突出する一対の大棘があること、頭胸甲全面に暗褐色に縁どられた不定形の乳白色斑が密集すること、歩脚は黄色で各節に暗色斑があり、先端はすべてオール状であることなどの特徴により本種と同定された (武田, 1982; 西村, 1995).

備考

本種は国外ではインド、マレーシア、中国、ニューギニア、オーストラリアから記録されており (Galil and Clark, 1994), 国内では北海道以南の日本海側、房総半島以南の太平洋側などに分布する (本尾・嶋田, 2016). 愛媛県では西条市加茂川河口、四国中央市から記録されており (大森, 2014), 瀬戸内海では近年生息数が減少していることから、岡山県で準絶滅危惧、愛媛県で絶滅危惧Ⅱ類、大阪府で同Ⅰ類に指定されている (日本

のレッドデータ検索システム: <http://jpnrdp.com/index.html>. 2025年3月3日参照). 本報告は県内において情報の少ない本種の確認記録であり、登録標本に基づく瀬戸内海伊予灘沿岸からの初記録となる.

謝辞

標本を登録いただいた徳島県立博物館の井藤大樹、鈴木佑弥の両氏に感謝の意を表する.

引用文献

- Galil BS, Clark PF. 1994. A revision of the genus *Matuta* Weber, 1795 (Crustacea: Brachyura: Calappidae). *Zoologische Verhandlungen, Leiden* 294: 1–55.
- 本尾 洋・嶋田敬介. 2016. 石川県の海岸で得られたキンセンガニ. 石川県立自然史資料館研究報告, 6: 1–13.
- 西村三郎. 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑[II]. 保育社, 東京. xii+144pls+663pp.
- 大森浩二. 2014. アミメキンセンガニ. 愛媛県レッドデータブック 2014 (https://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/08_06_003610_0.html. 2025年3月3日参照).
- 武田正倫. 1982. 原色甲殻類検索図鑑. 北隆館, 東京. vi+284pp.

(2025年3月3日受付, 2025年3月5日公開)

連絡先: 清水孝昭 (e-mail: simizu-t@sky.hi-ho.ne.jp)

(Takaaki Shimizu. 2025. An additional record of *Matuta planipes* (Matutidae) from Seto Inland Sea, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25002)